

## 野球U-18アジア選手権代表 伊藤(光星)

# 大学からプロ目指す

### 本社訪問 V報告と決意



野球のU-18アジア大会での優勝を報告する  
八学光星高の伊藤優平(中央)。左は同校の小  
坂貴志部長(15日)、デーリー東北新聞社

9月に台湾で開かれた  
野球のU-18(18歳以  
下)アジア選手権に日本  
代表として出場し、2大  
会ぶり5度目の優勝になっ  
た。優勝した八学光星高の伊藤  
優平が15日、八戸市のテ  
ーリー東北新聞社を訪  
問。世界を舞台に戦った  
貴重な経験を踏まえ、大  
学を経てプロを目指す決  
意を語った。

俊足巧打のリードオフ  
マンとして、今年の春の  
センバツと夏の甲子園に  
出場。アジア大会でも、  
自慢の脚力を生かして4  
盗塁を決めるなど活躍し  
た。初の世界大会では、  
プロ志望届を提出してい  
る精銳らと肩を並べて戦  
った。「みんな自分より  
(レベルが)上の選手ば  
かりで、いい刺激になっ  
た」と強調。他国のチー  
ムの印象については「日  
本と同じように、走力を  
生かしたスタイルが多か  
った」と振り返った。

八戸学院大へ進学し、  
競技を続ける予定。今後  
に向けて「周りのレベル  
は高かったが、そんなに  
差はないと感じた。大学  
で実績を積み、プロを目  
指したい」と宣言した。

この日は同校の小坂貴  
志部長と共に本社を訪  
れ、荒瀬潔社長らに優勝  
を報告した。(林泰輔)

## 脚力生かし成長したい

日本代表としてアジア大  
会に臨み、6試合のうち5  
試合に出場。4盗塁を決め  
たほか、決勝では2安打を  
放って躍動した伊藤。光星  
での3年間や、プロ入りを  
目指す今後に向けた意気込  
みを聞いた。

(聞き手・林泰輔)

—光星での3年間を振り返って

脚力を生かすために右打ちから左に転向し、初めは抵抗があったが、そのかい

もあって3年で春、夏と甲子園に出場できた。さらに成長するため、大学ではスウィッチヒッターに挑戦したい。

—教師になる夢が、プロ入りが変わったきっかけは  
日本代表の小枝守監督から「日本ハムの西川遥輝や中島卓也のように、脚を生かして活躍している選手もいる。お前もできるはずだ」と言われた。

—アジア大会は、自身に

とってどんな大会だったか  
日本代表で戦ったメンバ  
ー、海外のチームもレベル  
が高かった。その中に加わ  
って試合ができたのはいい  
経験になり、とても刺激に  
なった。海外も日本のよう  
に脚を生かして戦っていた  
のが印象に残った。

—より高みを目指す。今  
後の抱負を

アジア大会は、高校で使  
っていた金属バットから木  
製に変わった。芯に当たら  
ないと飛ばなかった。もっ  
とミート力を鍛え、長打力  
も高めるために右打席も練  
習したい。